

●取材協力●
NPO法人本宮いどばた会
〒969-2334
本宮市荒井山の神57-2
TEL (090) 2957-5126



誰にでも使いやすい子育てサービスを追求! ～地域に広がる新しい支援の形～



たくさんの絵本がそろった井筒屋文庫。子育て支援だけでなく、「いどばた会」会員の集いにも利用されています。

「さくらんぼひろば」は、白沢村と本宮町の合併をきっかけに平成20年から「本宮いどばた会」で運営。登録料が毎年500円かかりますが、今年は東日本大震災で本宮市内に避難している親子は無料です。

障がいをもつ人に合わせれば 万人に使いやすい

「誰もが住みよいまちづくり」を目指す「本宮いどばた会」は、車いすで生活しながら子育てしている橋本弘子さんから有志で平成13年に設立し、行政に提言などを行ってきました。会がファミリーサポートセンター※(以下ファミサポ)を立ち上げたのは平成17年です。現在理事長を務める八木沢典子さんは、当時本宮町役場の保健師でした。「役場にいると、急な用事ができたので短期間でも子どもを預けられる場所はないですか?と問い合わせを受けることが度々ありましたが、当時は受け皿がなかったのです。そんな時、県の講習を受けた橋本さん



「子育てを終えた世代は、お母さんしっかり!とプレッシャーをかけてしまいがち。そういうことこそ避けたい」と八木沢典子理事長。

市街地の私設図書館と連携し ファミサポの拠点に活用

ファミサポでコーディネーターを務める佳子さんは、かつて利用する側でした。自分が子育て中に助けられたという想いから今は支援にまわっています。「提供会員には子育て



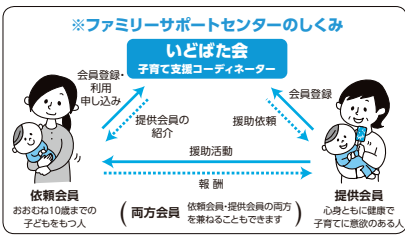
「お母さんに依頼されて保育園にお迎えに行く、子どもはほっとした表情を見せます」と平住子さん。「心と心の交流を大切にしていきたいですね」。

最中の若い世代もいます。彼女たちから聞かせる貴重な意見を受け止めるのが、誰か役に立っています。例えば、チラシに「なるへその手紙」でお申し込みください」という一文があると、急な用事ができたとき

うつわいてはいるお母さんが 帰りにには明るい表情に

利用しにくいという意見があり、「日でもOK!」と変更。また、「知らない人の家に子どもを預けるのは抵抗がある」という声を受け、市街地にある「井筒屋文庫」に場所を提供してもらったことになりました。井筒屋文庫は、酒屋だった建物を改装した私設の図書館。今年から月金の日中「いどばた会」のスタッフが常駐し、文庫の運営を手伝うとともに、ファミサポとの問い合わせにも応えています。たとえば当日は利用しなくても、顔が見える。対応が、安心感につながっているのではないかと期待しているのです。

子育て中はいつでも誰かが子どもを見てくれる拠点が必要なのではないかと思っています。話すのは、副理事長で子育て支援代表の石塚浩子さんです。石塚さんは、旧白沢村でお母さんたちがくつろげる場所を目指し、子育て支援活動「さくらんぼひろば」のボランティアを続けてきました。平成19年の町村合併で子育て支援の窓口が一元化された「いどばた会」との合流。現在は毎月木金土、白沢公民館の和室で就学前の子どもとその保護者を迎えています。室内にはフットボールテーブルを数台



※ファミリーサポートセンターの運営を開始したのは平成17年です。



「親子と接している自分の気持ちも明るくなります」と島貫しのぶさん。楽しんで親子を迎えています。

「誰かが住みよいまちづくり」を目指す「本宮いどばた会」は、車いすで生活しながら子育てしている橋本弘子さんから有志で平成13年に設立し、行政に提言などを行ってきました。会がファミリーサポートセンター※(以下ファミサポ)を立ち上げたのは平成17年です。現在理事長を務める八木沢典子さんは、当時本宮町役場の保健師でした。「役場にいると、急な用事ができたので短期間でも子どもを預けられる場所はないですか?と問い合わせを受けることが度々ありましたが、当時は受け皿がなかったのです。そんな時、県の講習を受けた橋本さん



旧白沢村で子育て支援を続けてきた石塚浩子さん。「公民館にきた地域の方たちも、さくらんぼひろばに立ち寄って、親子に声をかけていくんですよ」

が自分でファミサポをやりたい!と声を上げてくれたこと、行政とNPOの協働で養成講座を開き、少しずつ提供会員を増やしてきました。その後、八木沢さんは振り返ります。退職、一市民として活動に参加するようになり、今年から理事長を務めるようになりました。橋本さんは障がい者入会プログラムを推進する別の会にも参加し活動の幅を広げています。「いどばた会」は、「障がいがある人が使いやすいサービスや施設は、万人にも使いやすい」という考え方をモットーにしています。提供会員の養成講座でも、障がい児保育の勉強を欠かさずに重ねてきました。

八木沢理事長は、「干渉されたくない人もいて、見極めが難しいのですが、その後どう?と声をかけるだけで、気に掛けてくれてありがたい」と笑顔になるお母さんがいるのも事実です。困っていることを自分から誰かに発信できる仕組みとして、ファミサポやひろばを、複数の選択肢が必要。数は少なくても虐待の予防や早期発見にもつながるはずと話します。

現在、東日本大震災により本宮市に避難してきている親子は、「井筒屋文庫での一時預かり」と「さくらんぼひろば」の利用を無料にしています。また、今年の夏には使用電力量の調整で土日も通常業務となった企業から、行政を通じて企業内託児の依頼があり、会員が交代で対応しました。

次なる目標は、土日も利用できる拠点と、低額でも利用できる仕組みづくり。地域のニーズに応えながら、NPOならではの機動力を活かして、より使いやすい子育てサービスを目指してまいります。